

マイコプラズマ迅速診断キットの使用経験

くら 田 さつき

キーワード：マイコプラズマ迅速診断キット

要 旨

2015年9月から2016年3月にかけて、発熱と咳嗽を主訴として受診した患児のうち、マイコプラズマ感染が疑われた症例について、キットを用いたマイコプラズマに対する迅速抗原検査を施行した。検査を施行した74名のうち、陽性は50例、陰性は24例であった。陽性50例のうち、マイコプラズマ感染症に対して推奨されている内服薬で速やかに症状が改善したのは35例で、発熱が持続したり合併症と思われる症状が出現し病院を紹介受診となったのは15例であった。陰性24例のうち、臨床的または血液検査でマイコプラズマが起因菌として強く疑われたものは7例であった。外来レベルでマイコプラズマ感染症が疑われた場合、迅速抗原キットは内服薬を検討する上で有用であった。また流行期では、偽陰性例にも注意が必要である。

はじめに

マイコプラズマ抗原キット「リボテスト®マイコプラズマ」は、肺炎マイコプラズマ内に存在するリボソームタンパク質 L7/L12 を抗原とする迅速診断キットである¹⁾。マイコプラズマ感染症は、外来レベルでは急性期の血清抗体価陽性所見のみでは診断が困難なことから、判定結果に時間がかかることから、診断に時間を要する。一方、抗原を検出する肺炎マイコプラズマ抗原迅速診断キットは咽頭拭い液を使用するため侵襲性が低く、判定

までの時間も20分程度と短いことから、外来におけるマイコプラズマ感染症の診断に有用とされている。

今回、外来を受診したマイコプラズマ感染症を疑った患者に対し、マイコプラズマ抗原迅速診断キットを使用したことで、その有用性について検討する。

対象と方法

2015年9月から2016年3月までの7か月間に当院を受診した児のうち、著明な咳嗽と3日以上持続する発熱の児（途中からはマイコプラズマが流行したため、発熱が1日でも検査を希望した児）に対して、マイコプラズマ抗原迅速診断キットを

Satsuki KURATA

くらたこどもクリニック

連絡先：〒690-0001 松江市東朝日町232-10

くらたこどもクリニック